

(表)


地球温暖化対策実施状況報告書

平成 22 年 6 月 28 日

(報告先)  
横浜市長

報告者 住 所 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1  
氏 名 国立大学法人横浜国立大学  
学長 鈴木 邦雄【公印省略】

横浜市生活環境の保全等に関する条例第144条第2項の規定により地球温暖化を防止する対策の実施の状況を報告します。

事業所の名称	国立大学法人横浜国立大学	
事業所の所在地	横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1	
地球温暖化対策 の実施年度等	実施年度	平成 21 年度
	地球温暖化対策 計画の計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 22 年度
連 絡 先	施設部 施設企画課 施設企画係 担当者氏名 山口道子 (電話 045-339-3085 FAX 045-339-3099 ) (E-mail shi-kikaku.kikaku@ynu.ac.jp )	
※ 受付欄  (地球温暖化対策計画受付番号)		

(注意) ※印の欄には記入しないでください。

(A 4)

(裏)

地球温暖化対策の実施状況					
実施年度の 温室効果ガス 排 出 量	ガスの種類	排 出 量 (二酸化炭素換算 単位：トン)		基準年との増減 (単位：トン)	
	二酸化炭素	7, 470		-763	
	メ タ ン				
	一酸化二窒素				
	H F C				
	P F C				
	S F <sub>6</sub>				
	合 計	7, 470		-763	
※  温室効果ガスの 排出の抑制に 係る目標の 達成状況	温室効果ガス排出量の抑制に係る目標 (二酸化炭素換算 単位：トン)				
	基準年度の排出量	目標値	削減率	達成状況	
			%削減		
	温室効果ガス排出原単位の抑制に係る目標 (二酸化炭素換算 単位：トン又は kg)				
	指 標	基準年度の 原単位排出量	目標値	削減率	達成状況
	単位面積(m <sup>2</sup> ) 当たり	43.8	42.5	3 %削減	達成 9.8%
	※ 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の達成状況			別添とする	
地球温暖化対策の実施状況の公表の方法					
大学ホームページにて公表する。 <a href="http://www.jmk.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/5kan_mane/ondanka/ondankataisaku.html">http://www.jmk.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/5kan_mane/ondanka/ondankataisaku.html</a>					
その他地球温暖化を防止する対策の実施に関する事項					

(注意) ※印の欄は平成21年度の実施状況を記入してください。

# CO<sub>2</sub>排出量 算出根拠

<b>★計画開始年度を次の条件から選択してください。</b> 条件：平成19年度、平成20年度、平成21年度	計画開始年度 入力 <b>平成20年度</b>
---	----------------------------

燃料及び熱の種類	年間使用量		CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	単位発熱量		排出係数 (t-C/GJ)	排出係数 (t-CO <sub>2</sub> /GJ)
	数量	単位		数値	単位		
原油		(kl)		38.2	(GJ/kl)	0.0187	左欄×44/12
うちコンデンセート (NGL)		(kl)		35.3	(GJ/kl)	0.0184	左欄×44/12
揮発油	4.34	(kl)	10	34.6	(GJ/kl)	0.0183	左欄×44/12
ナフサ		(kl)		34.1	(GJ/kl)	0.0182	左欄×44/12
ジェット燃料油		(kl)		36.7	(GJ/kl)	0.0183	左欄×44/12
灯油	1.48	(kl)	4	36.7	(GJ/kl)	0.0185	左欄×44/12
軽油		(kl)		38.2	(GJ/kl)	0.0187	左欄×44/12
A重油		(kl)		39.1	(GJ/kl)	0.0189	左欄×44/12
B・C重油		(kl)		41.7	(GJ/kl)	0.0195	左欄×44/12
石油アスファルト		(t)		41.9	(GJ/t)	0.0208	左欄×44/12
石油コークス		(t)		35.6	(GJ/t)	0.0254	左欄×44/12
石油ガス	0.75	(t)	2	50.2	(GJ/t)	0.0163	左欄×44/12
液化石油ガス (LPG)		(t)		50.2	(GJ/t)	0.0163	左欄×44/12
石油系炭化水素ガス		(千Nm <sup>3</sup> )		44.9	(GJ/千Nm <sup>3</sup> )	0.0142	左欄×44/12
可燃性天然ガス (LNG)		(t)		54.5	(GJ/t)	0.0135	左欄×44/12
その他可燃性天然ガス		(千Nm <sup>3</sup> )		40.9	(GJ/千Nm <sup>3</sup> )	0.0139	左欄×44/12
石炭		(t)		28.9	(GJ/t)	0.0245	左欄×44/12
原料炭		(t)		26.6	(GJ/t)	0.0247	左欄×44/12
一般炭		(t)		27.2	(GJ/t)	0.0255	左欄×44/12
無煙炭		(t)		30.1	(GJ/t)	0.0294	左欄×44/12
石炭コークス		(t)		30.1	(GJ/t)	0.0294	左欄×44/12
コールタール		(GJ/t)		37.3	(GJ/t)	0.0209	左欄×44/12
コークス炉ガス		(千Nm <sup>3</sup> )		21.1	(GJ/千Nm <sup>3</sup> )	0.0110	左欄×44/12
高炉ガス		(千Nm <sup>3</sup> )		3.41	(GJ/千Nm <sup>3</sup> )	0.0266	左欄×44/12
転炉ガス		(千Nm <sup>3</sup> )		8.41	(GJ/千Nm <sup>3</sup> )	0.0384	左欄×44/12
その他の燃料等	691.81	(千Nm <sup>3</sup> )	1,575	45.0	(GJ/千Nm <sup>3</sup> )	0.0138	左欄×44/12
都市ガス (13A)		(千Nm <sup>3</sup> )		45.0	(GJ/千Nm <sup>3</sup> )	0.0138	左欄×44/12
産業用蒸気		GJ		1.00	GJ		0.0600
蒸気 (産業用のものは除く)		GJ		1.00	GJ		0.0570
温水・冷水		GJ		1.00	GJ		0.0570
他人から供給された電気	年間使用量		CO <sub>2</sub> 排出量 (t)			排出係数 (t-CO <sub>2</sub> /kWh)	
	数量	単位					
東京電力から供給された電気	17,342,160	(kWh)	5,879			0.000339	
東京電力以外から供給された電気 で		(kWh)					

※上表以外に排出するCO<sub>2</sub>排出量 (t)

**CO<sub>2</sub>排出量 合計 7,470 (t)**

### 使い方

- \* 黄色の欄に、計画期間、燃料・電気等の使用量を入力すれば、CO<sub>2</sub>の排出量が算出できます。
- \* 水色の欄、緑色の欄は自動計算です。緑色の欄の数値を「地球温暖化対策計画書」、「地球温暖化対策実施状況報告書」の「二酸化炭素」欄に記入してください。
- ※「上表以外に排出するCO<sub>2</sub>排出量」の欄は、メタン等の他の温室効果ガスではなく、上表以外の燃料や異なった係数を用いる場合に使用してください。
- ※ メタン、一酸化二窒素、HFC、PFC、SF<sub>6</sub>等は別に計算してください。

## 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の達成状況

### ● 計画年度における「指標の数値」

「指標の数値」 = 188,082 m<sup>2</sup> (延床面積)

「計画年度の温室効果ガス排出量」 / 「指標の数値」

= 8,233,000 (kgCO<sub>2</sub>) / 188,082 (m<sup>2</sup>)

= 43.8 (kgCO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>)

### ● 平成21年度における「指標の数値」

「指標の数値」 = 189,161 m<sup>2</sup> (延床面積)

「平成21年度の温室効果ガス排出量」 / 「指標の数値」

= 7,470,000 (kgCO<sub>2</sub>) / 189,161 (m<sup>2</sup>)

= 39.5 (kgCO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>)

### ● 取組の状況

#### 1. エネルギー使用量の削減

	項目	内容	達成状況
電気・燃料使用量の削減	a 照明の使用	・昼休み・不在時の照明の消灯	掲示、呼びかけにより実施
		・使用していない会議室、トイレ等の消灯	実施
	b OA機器等の使用	・使用していないOA機器の電源切断	実施
		・コピー機の節電モード設定	実施
	c 空調温度の管理、冷暖房負荷の軽減等	・冷暖房時温度の適正化	掲示、呼びかけにより推進
		・冷暖房時間を施設の使用実態に応じて適正設定	自動停止機能導入など推進
		・ブラインド・カーテン等の適切な使用により冷暖房負荷を軽減	実施
		・空調の吹き出し口に物を置かない	推進
		・冷房期の軽装等、服装の工夫により適正温度を維持	掲示、呼びかけにより実施
	d エレベーターの使用、運転管理	・近隣階(上下階)への移動は、エレベーターの使用を控える	掲示などにより推進
e 給湯器等の使用、管理	・給湯器等の、温度を適正に設定するなどの適切な運転管理	掲示などにより推進	

## 2. 資源の有効利用

	項目	内 容	達成状況
水道使用量の削減	a 水利用の抑制等	・日常的な節水	実施
		・散水用水等には可能な限り雨水や再利用水を使用	グランド散水に地下水を利用など実施
		・日頃から水漏れの点検を行う	目視およびメーター値確認により実施
用紙類の使用量の削減	a 用紙類の使用の抑制	・会議等では、資料の簡素化や作成部数の適正化を徹底	推進
		・事前配布資料の再配布はしない	推進
		・学内LAN, 電子メールの活用等によるペーパーレス化を推進。	ペーパーレス会議順次導入など推進
		・両面コピーを徹底	コピー機の基本設定に実施
		・コピー終了後にオールクリア機能を実行し、ミスコピーを削減	実施
		・使用済封筒の学内便等への再使用	実施
		・ミスコピー紙等の裏面利用, メモ用紙等への再利用	推進
・文書及び資料の共有化	データ共用など実施		
廃棄物の減量化、リサイクルの推進	a 事務用品・備品の適正な使用	・事務用品の共用化及び再使用, 使用期間の長期化を図る	実施
	b リサイクルの推進	・コピー機やプリンターのトナーカートリッジは、リサイクルカートリッジを使用	実施
		・古紙やびん・カン・ペットボトル及びプラスチック類等の分別収集・リサイクル	実施
c 生ごみ等の再資源化	・樹木の落葉を緑地に戻す	実施	
購入の推進	グリーン	a 物品等の調達に当たっては環境負荷の低減を図るため本学の「環境物品等の調達の推進を図るための方針」に基づき環境物品等の調達を推進	実施

## 3. 公用車の利用における取組

	項目	内 容	達成状況
公用車 燃料使 量の削 減	a 公用車利用の合理化・走行量の抑制	・公共交通機関を優先的に利用	実施
低燃費車、クリーンエネルギー自動車の導入	a 公用車を購入又は更新する際は、低燃費車及びクリーンエネルギー自動車の導入に努める		新機購入時に対応

## 4 施設の整備及び管理における取組

	項目	内 容	達成状況
環境への負荷及び省エネルギーに配慮した設備の導入並びに施設の整備及び改修	a 建築物等	・建築資材等の調達に当たっては本学の「環境物品等の調達の推進を図るための方針」に基づき、環境物品等の調達を推進	実施
		・建物の断熱性の向上を図る	新築、改修時に実施
		・カーテン、ブラインド等の使用により日射の防止を図る ・自然光を有効に利用	実施
		・屋上緑化及び周辺緑化を推進	一部実施
		・代替フロンを使用していない資材の使用を推進	実施
		・透水性舗装の導入等、雨水の地下浸透を推進	改修時実施
		・長期使用できるよう、維持保全にも考慮した計画及び設計に努める	実施
	b 電気設備・エネルギー供給設備等	・太陽光発電、風力発電など新エネルギーを利用した設備の導入に努める	検討中
		・夜間電力を利用した蓄熱システム等の利用を検討	検討中
		・省エネルギー型設備機器の導入に努める	新設時実施
	・照明回路や空調等の適切なゾーニングをすすめる	実施	
	・空調機器、冷凍機器等は、より地球温暖化への影響の少ない冷媒を使用する機器を選択	検討中	
	・学内の自動販売機について、設置台数の適正化を図るとともに、省エネルギー型への転換をすすめる	実施	

	項目	内 容	達成状況
	c 水利用	・中水を有効利用	実施
		・節水型設備の導入をすすめる。	実施
	d 施設管理の徹底等	・空調機器, 冷凍機器等からのフロン類等の漏洩防止等維持管理の適正化に努める	実施
		・電気機械等からの六ふっ化硫黄の漏洩防止に努める	実施
		・フロン類, 六ふっ化硫黄等が使用されている機器等(空調機器, 冷凍機器, 電気機械, 自動車等)を廃棄する際には, フロン類, 六ふっ化硫黄等を適正に処理	実施
	e 公共工事	・熱帯材型枠の使用の合理化を推進	検討中
		・副産物の再利用及びリサイクル材を優先的に使用	実施
		・リサイクル可能な資材を優先的に使用	実施
		・施工段階での建設副産物の発生抑制と再利用を図る	実施